

Online システムを活用したアソシエイト/フェローシップ プログラムの構築ならびに実践

Construction and practice of online system for Associate/Fellowship Program

丹羽 雅之, 西城 卓也, 藤崎 和彦, 鈴木 康之
Masayuki NIWA, Takuya SAIKI, Kazuhiko FUJISAKI, Yasuyuki SUZUKI
医学教育開発研究センター
Medical Education Development Center
岐阜大学
Gifu University
Email: mniwa@gifu-u.ac.jp

あらまし：医学教育開発研究センターでは主に医療教育者を対象とした「医学教育セミナーとワークショップ (S&W)」を年4回開催している。今回さらなるキャリア開発を支援するため、online システムを主体としたアソシエイト制度ならびにフェローシップ プログラムを開始した。すなわち S&W で所定の単位を取得した参加者を「アソシエイト」と、アソシエイトの単位を満たし online 履修により医学教育学を学び、合格した者を、「フェロー」と認定するものである。これらのサポートシステムを構築し、トライアルを実施した。

キーワード：医療教育者、アソシエイト/フェローシップ、認定プログラム、Online システム、セミナーとワークショップ

1. はじめに

超高齢社会・国際化社会に対応できる医療人を育成し、真に教育を牽引できるリーダーを育成するためのプログラムは必須である。海外ではリーダー育成のための医療者教育修士課程やフェローシッププログラムが普及しつつあるが、わが国の取組は立ち遅れている。そこで、国際標準の医療者教育を推進できる指導者を育成するため、オンライン履修を主体とした「医療者教育アソシエイト/フェローシッププログラム」を構築し全国展開を図ることとした。これにより従来型の FD を脱却した新たな取組により、国際標準の教育力と確かな教育キャリアを確立し、医療教育の改善、ひいては医療レベルの向上を図ることができる。2015年度にアソシエイト/フェローシップ プログラムのトライアルを実施したので、その概要・プログラム構築について報告する。

2. 医療者教育アソシエイト/フェローシッププログラムの概要

2.1 背景

文部科学省・医学教育共同利用拠点である岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は全国 FD 「医学教育セミナーとワークショップ(S&W)」^[1,2,3]を2001年以来、原則年4回開催し、全国の医学部・医療系教育機関の教員、臨床指導医、模擬患者などに対して多彩な研修事業を実施してきた。すでに通算60回を開催のべ参加者は6,500名以上となり、リピーターも多く、全国の各大学・地域で指導者として活躍している。

2.2 アソシエイト制度

医学教育に関する基本5領域（教育方法・評価・カリキュラム設計・運営とリーダーシップ・研究）の S&W 企画に参加し、所定の単位を取得した者をアソシエイトとして認定する（図1）。

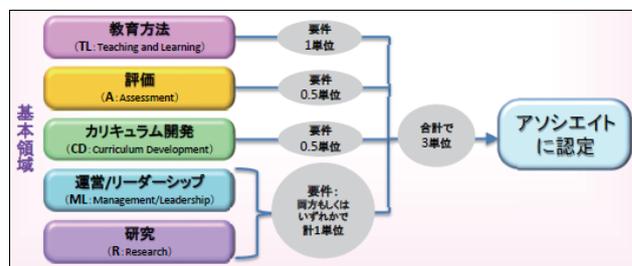


図1 アソシエイト制度

2.3 フェローシップ プログラム

大学教員・臨床指導医・幅広い医療教育指導者を対象とし、教育・研究の実践能力をさらに高め、リーダーシップ/マネジメントについて修得した者を認定する。この認定にはアソシエイト認定が必須条件となる。プログラムはメドギフト (MEDC, Gifu Total learning course) と称する3つのモジュールからなり、学習方法、評価、プログラム設計、運営とリーダーシップ、学研的活動に関する基本や原則をトータルに学ぶ。また参加者各自の教育実践を題材にし、その改善を議論する。本プログラムは参加者が職場や自宅で学べるよう、原則として online コースならびに web ミーティングで実施した（図2）。

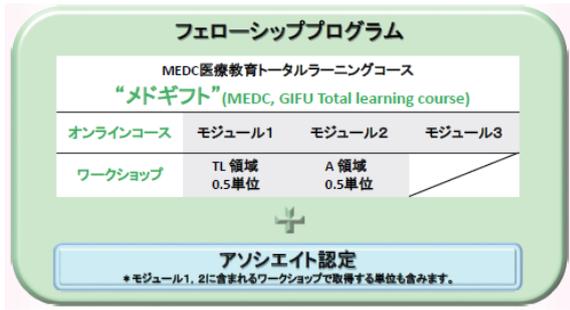


図2 フェローシップ プログラム

3. プログラム構築

医療者教育アソシエイト/フェローシップ プログラムの運用には、S&W 受講状況、獲得単位数の把握、受講者への案内配信、受講受付・管理、online によるディスカッション等各種プログラム提供、e-ポートフォリオ等を用いた受講者評価、プログラム認定判定など総合的な web 管理システムが必要となるが、平成 27 年度は既存のシステムをバージョンアップするなどして、トライアルを実施した。

3.1 管理システムの構築

既存の S&W 受講システムを online 化し、S&W に参加した述べ 6,500 余名の参加者のデータベースを構築し、基本 5 領域毎の獲得単位に基づき、アソシエイト認定ができる管理システムを開発・構築した。MEDC で受講状況を一括管理・認定するとともに、受講者は自身の獲得単位状況を検索できる。現時点では暫定的に過去 5 年間の集計に基づき仮運用している。



図3 受講状況管理画面

3.2 フェローシップ online 学習システムの構築

MEDC ではオンライン学習システムとして ePBL (楽位置楽 The Tutorial) を独自に開発し、長年にわたり実践してきた^[4,5]。この蓄積されたノウハウを生かし、既存のシステムを改修し、フェローシップ プログラムでの重要な位置づけを占める online ディスカッション用のシステムを構築した (図4)。受講者はこのシステムを介して議論するとともに、担当教員よりフィードバックを受け、レポートなどの成果を投稿した。なお、オリエンテーション、成果発表等の目的で実施する web ミーティングは V-Cube ミーティングシステムTMを使用した。



図4 online ディスカッションコース一覧画面

4. トライアルコースの実践

2015 年度はトライアルコースとして実施したところ、フェローシップ プログラム モジュール1、2、3 への受講は表1のとおりであった。受講者の各モジュールの評価は MEDC 教員が複数で行った。3 モジュールすべてを合格したのは4名であった。そのいずれもがアソシエイト認定基準を満たしていたため、フェローシップ認定とした。他方、現時点でアソシエイト認定基準を満たしている S&W 受講者は27名であるが、そのうち1名がアソシエイト認定を希望し、フェローシップ認定者とともに S&W 開催時に称号を授与した。

表1 2015 年度トライアル参加人数

モジュール1	モジュール2	モジュール3
クラス金華山 11	クラス金華山 12	クラス河原町 10
クラス長良川 11	クラス長良川 11	

5. おわりに

トライアルは概ね順調に実施でき、フェロー認定4名、アソシエイト認定1名を輩出した。今後は正式実施を行うとともに、総合的な web 管理システムを構築するなど改善を図りたい。

参考文献

- (1) 丹羽雅之, 鈴木康之, 藤崎和彦, 加藤智美, 谷本真由実, 松尾 理, 名郷直樹, 吉田一郎, 高橋優三, 医学教育セミナーとワークショップの10回にわたる開催経験, 医学教育, 第36巻, 第2号, pp89-96 (2005)
- (2) 丹羽雅之, 藤崎和彦, 加藤智美, 阿部恵子, 若林英樹, 高橋優三, 鈴木康之, 医学教育セミナーとワークショップ: 30回開催を振り返って, 医学教育, 第40巻, 第5号, pp 367-74 (2009)
- (3) 西城卓也, 丹羽雅之, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 坂下和美, 藤崎和彦, 鈴木康之, 医学教育における教育者養成のこれまでとこれから: 医学教育セミナーとワークショップの歴史が示す将来, 医学教育, 第45巻, 第2号, pp13-24 (2014)
- (4) Suzuki Y, Niwa M. e-PBL: e-PBL: Possibilities and Limitations. J Med Educ, Vol.16, No.1, 1-8 (2012)
- (5) Niwa M, Yoshida S, Takamizawa K, Nagaoka S, Kawakubo N, Takahashi Y, Suzuki Y. Facilitation of web-based Internet PBL: what is an adequate group size? IeJSME, Vol.8, No.2, 4-11 (2014)